



日本をもっとおもしろく！ ～福井から、日本を変える～



令和6年5月30日
福井県知事 杉本 達治

自己紹介

- 氏名 杉本 達治（すぎもと たつじ）
- 生年月日 昭和37年7月31日（61歳）
- 出身地 岐阜県

- 略歴

- 昭和61年3月 東京大学法学部卒業
- 昭和61年4月 自治省入省（現総務省）
- 平成13年1月 総務大臣秘書官
- 平成15年9月 総務省自治行政局行政課企画官
- 平成16年7月 福井県総務部長
- 平成19年7月 内閣参事官（内閣官房副長官補付）
- 平成22年7月 総務省自治税務局市町村税課長
- 平成25年7月 福井県副知事
- 平成28年6月 総務省消防庁国民保護・防災部長
- 平成30年7月 総務省公務員部長（～11月退官）
- 平成31年4月 福井県知事（1期目）
- 令和5年4月 福井県知事（2期目）



目次

- 1 福井県の紹介
- 2 県政運営の基本原則
- 3 ふくい新時代の幕開け
- 4 「価値づくり産業」の創出

目次

- 1 福井県の紹介
- 2 県政運営の基本原則
- 3 ふくい新時代の幕開け
- 4 「価値づくり産業」の創出

福井県の概要

日本海国土軸の中心に位置し、都につづく大陸文化の玄関口として、時代を通して人・モノの重要な結節点となってきた。



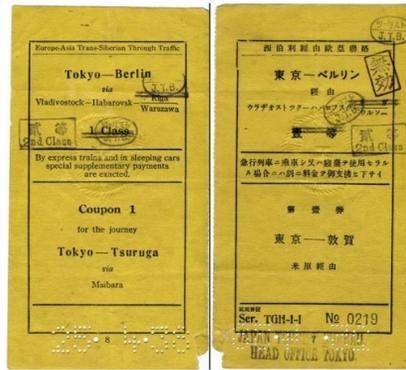
古代より「御食国」として、若狭の美物（うましもの）を都に運び、京の食文化を支えた（画像は、鯖街道 熊川宿）



平安時代、大国に分類される越前国の国司に赴任する父・藤原為時に同行し、紫式部が約1年間滞在



江戸から明治にかけて、財や文化を運ぶ北前船が寄港（三国・南越前・敦賀・小浜）



明治の終わりから昭和の初め、欧亜国際連絡列車が敦賀港を発着

●京都～福井

JR／特急サガハート・北陸新幹線
1時間16分（最速値）

北陸新幹線全線開業後
40分 ※36分短縮（福井県試算）

自動車／名神・北陸自動車道
約2時間30分

面積	4,190 km ² （34位）
人口	740,232人（43位） [令和6年4月：県推計人口]
世帯数	296,585世帯 [令和6年4月：県推計人口]
就業者数	415,138人（43位） [令和2年：国勢調査]
県内総生産（名目）	3兆5,711億円（40位） [令和2年度：県民経済計算]
一人あたり県民所得	318万円（3位） [令和2年度：県民経済計算]

都道府県 幸福度ランキング 10年連続日本一

○「教育」「仕事」「生活」「健康」の各分野が充実。総合評価での幸福度日本一

順位	2014年版 (60指標)	順位	2016年版 (65指標)	順位	2018年版 (70指標)	順位	2020年版 (75指標)	順位	2022年版 (80指標)
1位	福井県								
2位	東京都	2位	東京都	2位	東京都	2位	富山県	2位	石川県
3位	長野県	3位	富山県	3位	長野県	3位	東京都	3位	東京都

教育分野 1位

不登校児童生徒率 (低い方から)	1位
学 力	2位
悩みやストレスの ある率(低い方から)	3位

仕事分野 1位

インターンシップ 実施率	1位
大卒者進路未定者 率(低い方から)	2位
若者完全失業率 (低い方から)	2位

生活分野 4位

待機児童率 (低い方から)	1位
一人暮らし高齢者 率(低い方から)	2位
生活保護受給率 (低い方から)	3位

健康分野 11位

スポーツの活動 時間	7位
産科・産婦人科 医師数	7位
高齢者ボランティア 活動比率	9位

(一般社団法人 日本総合研究所「全国47都道府県幸福度ランキング2022年版」)

目次

- 1 福井県の紹介
- 2 県政運営の基本原則**
- 3 ふくい新時代の幕開け
- 4 「価値づくり産業」の創出

県政運営の基本原則

県政運営の三本柱

- 1 県民主役の県政
- 2 徹底現場主義
- 3 チームふくい(連携)



長期ビジョン策定に向けた若者とのワークショップ

- 職員クレド
- OODA(ウーダ)ループ
- 政策オープンイノベーション
- 政策デザイン



福井県長期ビジョン
(令和2年7月策定)

職員クレド

私たちは、徹底的に現場にこだわり、県民の声を聴く「県民主役の県政」を常に意識し、次の5つのクレドに基づき責任を持って行動します。

① 「現場」って本来の職場

- 自分にとっての現場がどこか確認する。
- 現場の状況、相手をよく観察する。
課題を探す。
- 現場を起点に、解決への切り口をより多く見つける。



④ 「創意工夫」って現状打破

- 制約を理由にあきらめない。
「アイデアを拡げて絞る」を繰り返す。
- 自分の領域・分野の外からも考えてみる。
- ありそうでなかった“新しい常識”を福井県から生み出す。



② 「挑戦」って毎日するもの

- 自分の枠に捉われず、小さな挑戦を毎日続ける。
- 批判だけで終わらない。
共に解決策を考え、挑戦する仲間を応援する。
- 挑戦による失敗から学ぶ。安心して挑戦できる職場を作る。



⑤ 「効率化」って決める覚悟

- 県民と自分のために、最小の時間で成果を最大にする。
- 仕事の目的を考え、「やるべき仕事」の優先順位を決める。
- 「やめる、減らす、変える」を実践し、チャレンジする時間を作る。



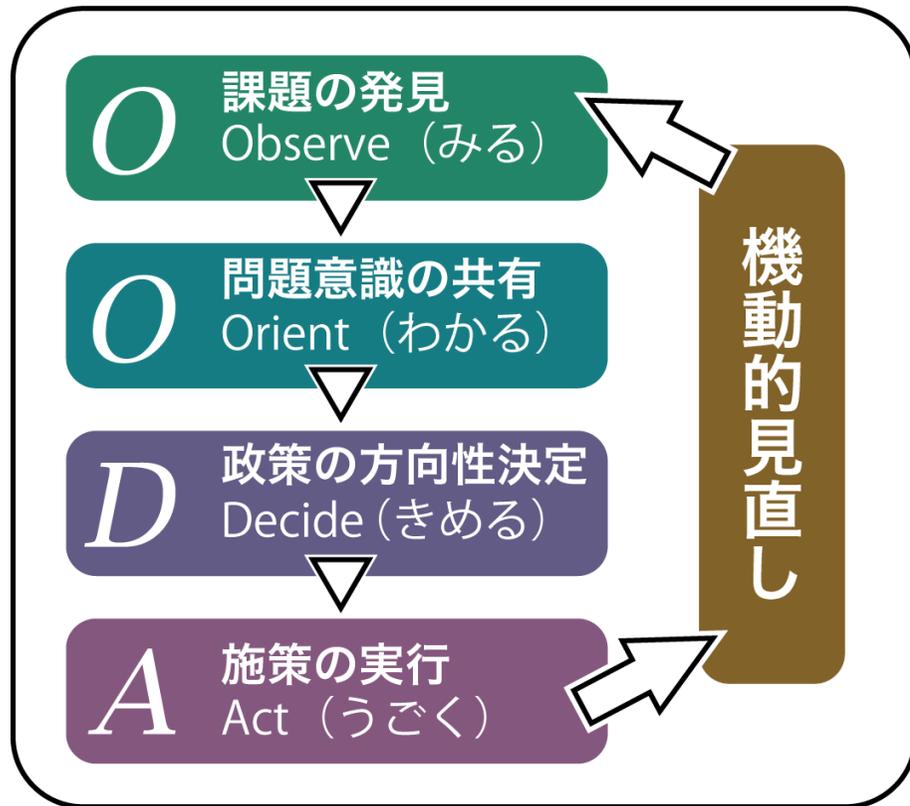
③ 「協働」って仕掛けづくり

- 相手の話をよく聴き、自分の意見と熱意を伝え、信頼関係を築く。
- 意見が対立した時には、実施する目的を互いに確認する。
- 相手と自分の強みを活かし、共に参加したくなる仕掛けを作る。

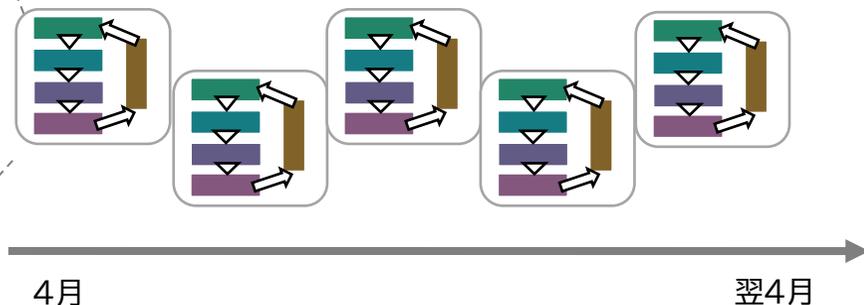


OODA(ウーダ)ループ

徹底現場主義により「課題発見」→「実行」→「改善」をできるだけ早くまわす



- ・「政策トライアル枠予算」の積極活用
- ・随時見直し「いつでも」「何度でも」
- ・短時間で解決する「タスクフォース」



従来

PDCA=年度ごとのマネジメント

1年
スパン



政策オープンイノベーション

1 長期的視点

- 長期ビジョン(～2040)
- 実行プラン(2020～2024)
- 未来をつくる実践目標「チャレンジ」

2 創造性重視

- デザイン思考
- データサイエンス(EBPM)
- チャレンジ政策提案
- 地方兼業(都市人材コラボ)

3 機動的視点

- 職員クレド
- OODAループ
- ふくい式20%ルール
- 政策トライアル枠予算
- 県職員の兼業・副業

4 総合力発揮

- 知事と市町長との
政策ディスカッション
- 民間企業等との共創
- 県民アクション「ちょい足し応援」

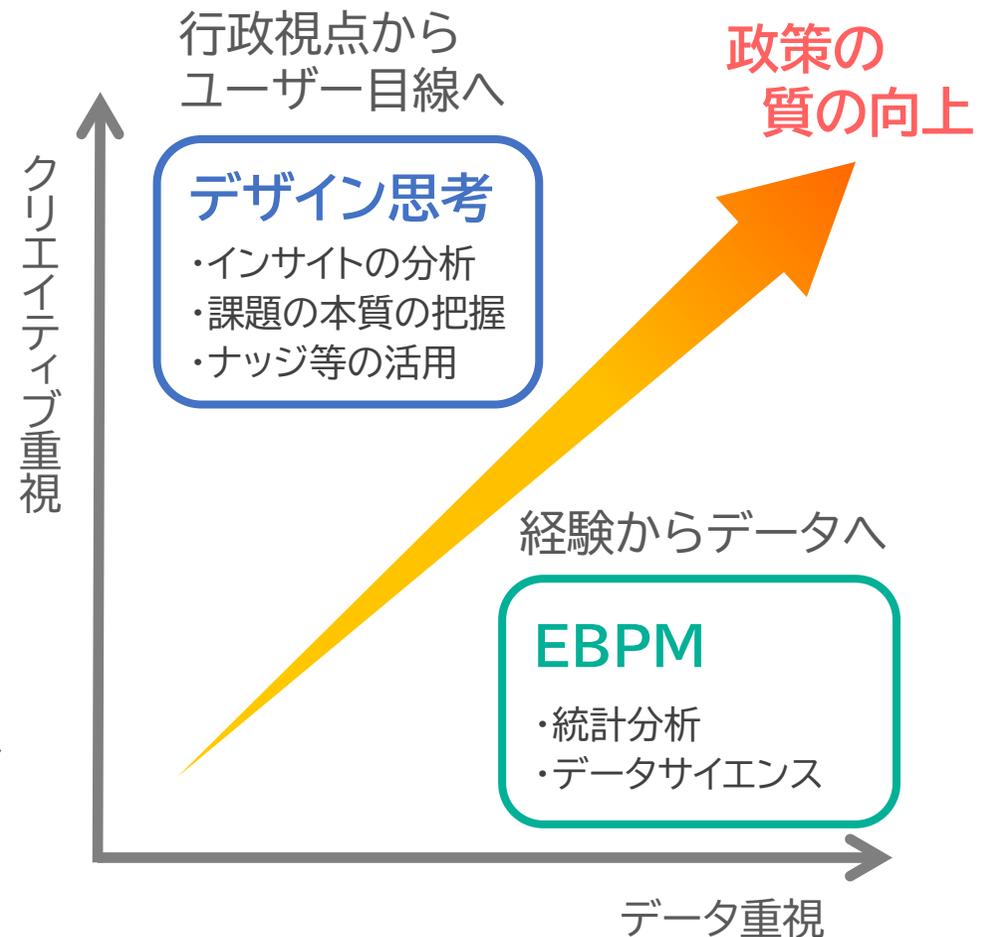
政策デザイン

政策目的を達成するための、解決の道筋を描く

- ・課題の抽出 〈現場・観察・問い〉
- ・目的の設定 〈定義〉
- ・コンセプトの構築 〈概念化・方向性〉
- ・仕組みづくり 〈ターゲット、プロセス、体制〉
- ・磨き上げ 〈テスト、フィードバック〉 など

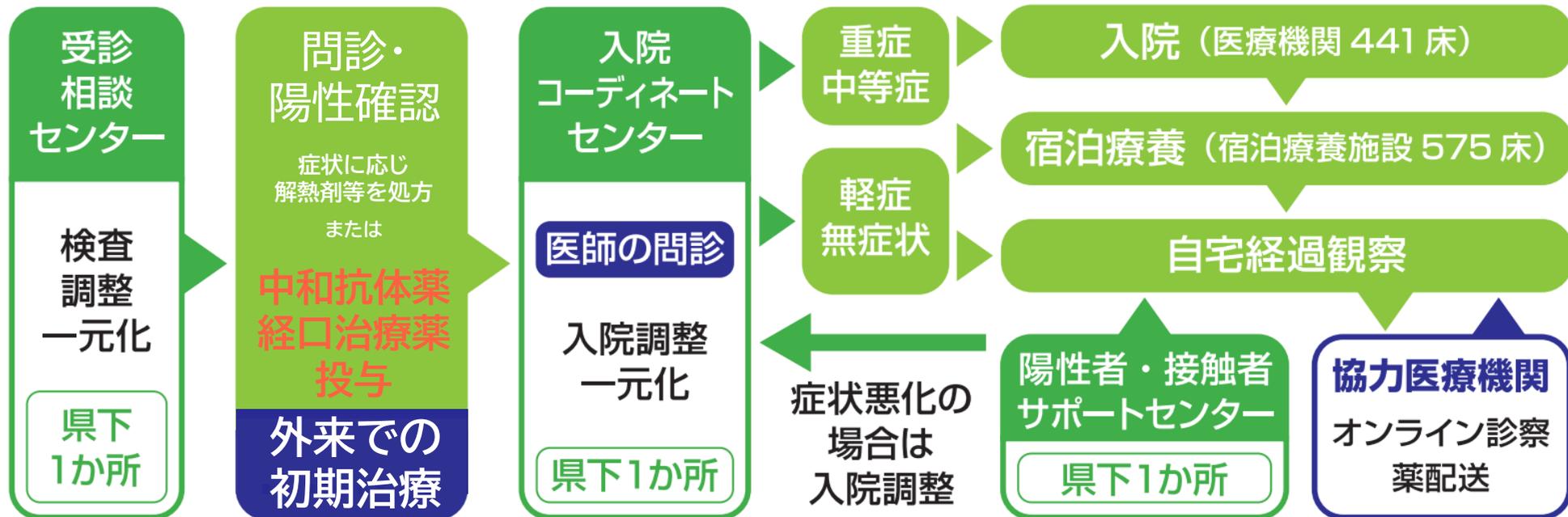
これまでは経験や積み上げにより形成

⇒ 「ユーザー目線」、「エビデンス起点」へ
全体を俯瞰、手法を最適化



新型コロナ対策「福井モデル」

早期発見・早期治療・常時見守り → 感染拡大・重症化の防止



チームふくい

県民、医療関係者
県議会、市町
各種団体など

積極的疫学調査
幅広い検査

経路不明

1.7%

エビデンス
感染場面の特定

マスクなし会話

93%

先手先手の対策

全国初

マスク購入券
臨時医療施設
おはなしはマスク
ワクチンダッシュボード
自宅観察システム
外来での中和抗体薬等投与

「おはなしはマスク」の徹底

距離 リスク
 マスク × 1m = 0%
 理化学研究所によるシミュレーション

自分も、
 まわりの誰かも、
 大切に。



マスクし忘れてた!にご注意。 うっかりリスト

こんな場面で新型コロナウイルスが起っています。

仕事場で
つつい

うつかりスト①
 突煙所で、居合わせた上司に、突煙しながら、仕事のことを相談、うつかりスト②

友だちと
思わず

うつかりスト③
 野外から帰ってきた横かしの友人と外食、マスク合食を忘れ、つる話を大声で、うつかりスト④

家族や仲間と
なにげなく

うつかりスト⑤
 友人の部屋で、お菓子もぐもぐ、マスク着けずに、気付けば電話、うつかりスト⑥
 法事の後、集った親戚と食事、自宅の気楽さから、マスク徹底できず、うつかりスト⑦

学校で
知らず知らず

うつかりスト⑧
 同級生との帰り道、鼻マスクにした後、鼻マスクにしたり、アゴにずらしたり、うつかりスト⑨
 部活動の休憩中、水を飲み飲み、肩を寄せ合って、互いのアゴパイプ、うつかりスト⑩

趣味の時間
無意識に

うつかりスト⑪
 接客を伴う飲食店、ノリノリでカラオケ、店員さんで、ノーマスクデット、うつかりスト⑫
 スポーツ後の更衣室、マスクを外して着替えて、外してを忘れて、そのままだ笑、うつかりスト⑬

あつしめ
 今日から
 親しき仲こそ
 マスクあり
 しっかり
 なりやす!!

事実。
 感染は
 マスクなし会話が
 9割

「シンプル」が頼れる!
 BEST METHOD
 届きたい
 76万人に
 「おはなしはマスク」

「家族のために、迷わずできること。」

感染経路が特定できる感染者の9割超がマスクなし会話で感染したと推定されます。食事・中食を含め、会話時のマスク着用を徹底。家庭内でも体調不良の家族がいる場合は、マスクを着用しましょう。

福井県からのお知らせ ●体調不良を感じたら(受診・相談センター)にご相談ください。 ☎️ だんぶ0776-20-0795

感染者の8割超がマスクなし会話が原因で感染したと推定されます。
 ワクチン接種後も「おはなしはマスク」など感染対策を徹底しましょう。

日本の人口減少の構造

- ・大学、企業等が偏在する都市部に若者が転出
- ・未婚化、晩婚化、出生率の低下が著しい都市部への人口集中が、日本全体の少子化を加速

①若者の都市部への転出

	全国	福井県	東京圏※
日本人の転入超過数 (2023年)	±0人	▲0.26万人	+11.5万人
〔うち20歳代〕	±0人	▲0.18万人 (転出者の約7割)	+10.7万人 (転入者の約9割)

※東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県

⑤国全体としての出生数の減少

①東京都出生率が福井県並みであった場合

東京都出生数 9.1万人 × 1.44倍(福井県出生率1.50 / 東京都出生率1.04)

東京都出生数 9.1万人 → 13.1万人 [+4.0万人]

②全国出生率が福井県並みであった場合

全国出生数 77.1万人 × 1.19倍(福井県出生率1.50 / 全国出生率1.26)

全国出生数 77.1万人 → 91.8万人 [+14.7万人]

【データ】国勢調査、人口動態統計調査、住民基本台帳移動報告、人口統計資料集

②親世代の都市部への集中

	全国	福井県	東京都
10歳代人口 (2000年)	1,403万人	9.4万人	112.2万人
30歳代人口 (2020年)	1,421万人	7.9万人	196.8万人
20年間で			
			▲1.5万人 (▲16%)
			+85万人 (+75%)

③未婚化・晩婚化

	全国	福井県	東京都
50歳時未婚率 (生涯未婚率) (2020年)	男性 28.3% 女性 17.8%	23.4% 12.1% (全国最小)	32.2% 23.8% (全国最大)

④出生率の低下

	全国	福井県	東京都
合計特殊出生率 (2022年)	1.26	1.50 (全国で9番目に高い)	1.04 (全国最低)
出生数 (2022年)	77.1万人	0.5万人	9.1万人

国が、大学・企業等の偏在解消などに本腰を入れて取り組み、分散型国家を実現することが急務

大学定員の偏在

- 東京都の **18歳人口**は全国の**約9%**、一方で**大学入学定員は約25%が集中**

(2021年)

18歳人口	[全国]	111.4万人	[東京都]	10.4万人 (約 9%)
大学入学定員	[全国]	61.4万人	[東京都]	15.3万人 (約25%)

- 地方では、大学進学者数に対して大学入学定員が少なく、県外への流出が多い

(2022年)

福井県出身の大学進学者 3,896人
福井県内大学の入学定員 2,330人

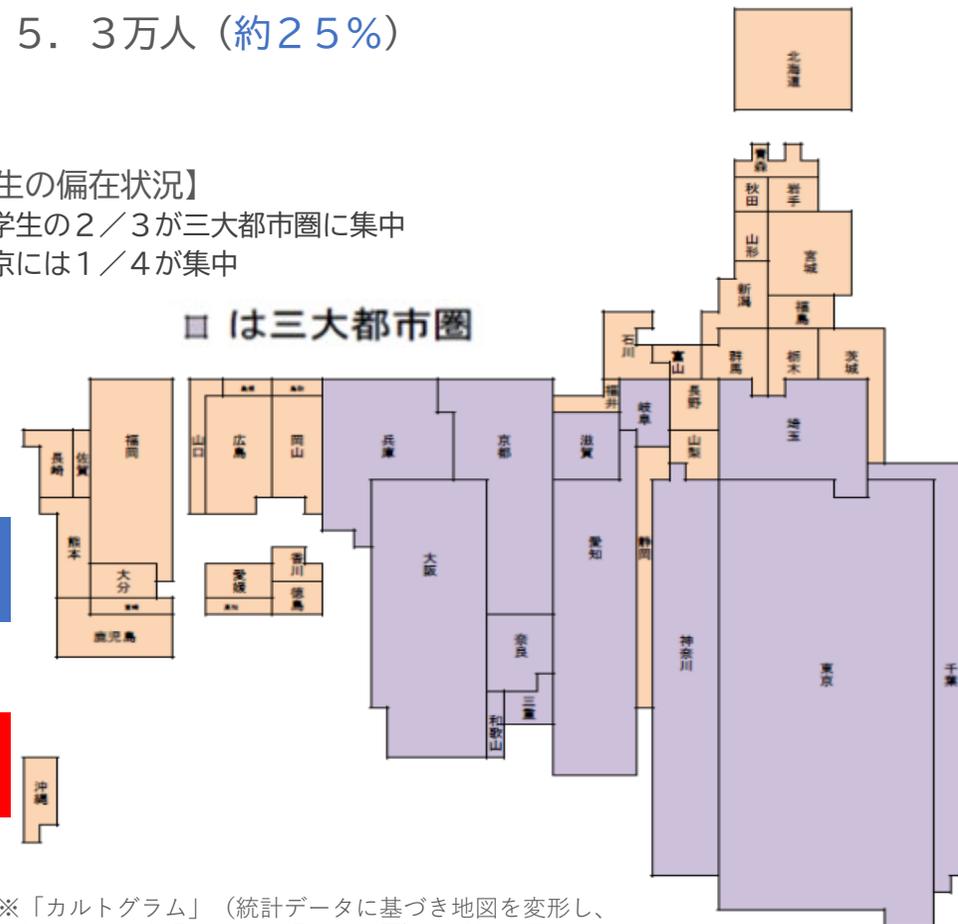
約4割の
受け皿不足

福井県出身の大学進学者 3,896人
うち、県内大学への進学者 1,176人

約7割が
県外に流出

【大学生の偏在状況】

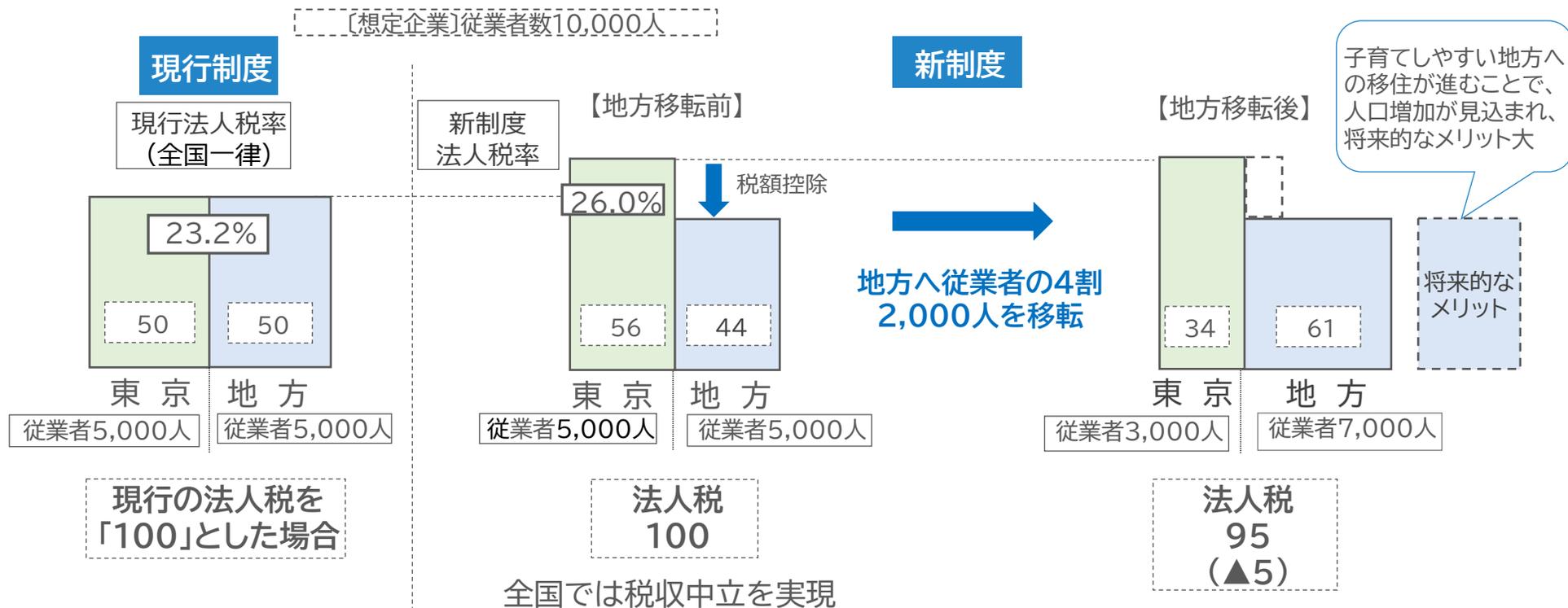
- 大学生の2/3が三大都市圏に集中
- 東京には1/4が集中



※「カルトグラム」(統計データに基づき地図を変形し、地域の特徴を視覚的に表現する地図)の手法を用いて独自作成

新たな法人税制の提案

- 働く場所を選ばない「新しい働き方」が全国に浸透し、地方へ企業移転を進める好機
- 東京都と地方の法人税負担に実質的に差を設け、従業員の移住を伴う地方への企業移転を促進

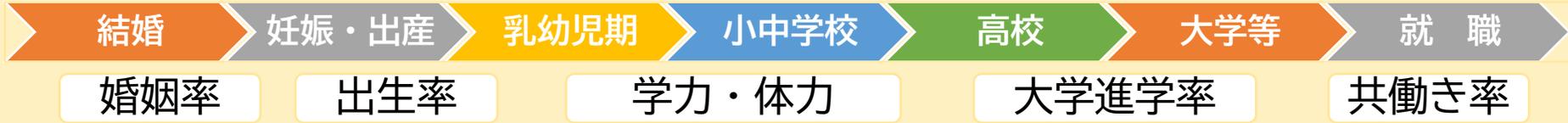


法人税率を26%に引き上げ、地方の従業員数に応じて20%相当の税額控除を実施することで、**利益を上げている元気な企業が地方に人を移すインセンティブ**を付与

※課税標準を従業員数(法人住民税の分割基準)の考え方で按分し、減税額を算出

日本一幸福な子育て県 「ふく育県」

全国トップレベルの子育て・教育環境



○ 「ゆりかごから巣立ちまで」の支援を実現

・子育てに「ゆとり」を！

- 第2子以降の保育料無償化(所得制限撤廃)
- 第2子以降の在宅育児手当支給(所得制限撤廃)
- 複数世帯の高校授業料無償化(所得制限撤廃)等

日本一の
"複育"応援

・子育てをもっと「楽しく」!

日本一の男性育休支援(1社あたり最大602万円超)

・子育てを「お得」に!

- 子育て世帯にデジタル地域通貨
- 「ふく育ポイント」を発行



○ 「地域全体で」若い世代を応援

- ・ふくい家事育児サポーター「ふく育さん」の派遣開始
- ・妊婦や子育て世帯の外出をサポートする「ふく育タクシー」運行開始



県庁の取り組み(働き方改革)

職員が力を発揮できる、働きやすい環境づくり

○働き方改革“Life style shift”

- ・早く帰る、休む(長く働くことを評価しない)
- ・仕事の「やめる、減らす、変える」を実践する

【目標】

	2018	2023	2024 (目標値)
超過勤務時間の縮減	年間 1 7 7 時間/人	年間 1 3 2 時間/人	年間 1 2 5 時間/人
年休の取得促進	年間 9.0 日/人	年間 1 3.6 日/人	年間 1 5 日/人

2018実績から **3割減**

毎月1日以上

+年末年始・GWなどにあ
わせてまとめ取り推奨

○柔軟な働き方

(フリーアドレス、DX(ペーパーレス)、フレックスタイム、
テレワーク、スマートスタイル)

- ・職場の座席数を削減
- ・共創スペースの拡大

▶「職場」 = 自分のいる場所 (≠県庁)



フリーアドレスを導入した執務室

県庁の取り組み(女性活躍・両立支援)

「女性活躍」女性が働きやすく、両立しやすく、自らの意欲や能力に応じて、躊躇なくチャレンジできるように

○女性リーダーの活躍

- ・ 課長補佐・GLに女性職員を積極登用
- ・ 女性の管理職割合 **過去最高23.2%**(R6.4)
- ・ 女性職員の職域を拡大(防災・危機管理部門、土木部管理職 等)



Fika(フィーカ)の様子

○女性のキャリア形成を応援

- ・ 様々な働き方をする先輩職員(ロールモデル)の事例
- ・ 家庭・仕事の両立など、職員同士で話し合う交流会(フィーカ)を実施(R5~)

○男性職員の育休取得促進

- ・ 「子育て応援アドバイザー」による個別面談の実施
(育休中の過ごし方や、共家事(トモカジ)、復帰後の両立等について職員に応じたアドバイスを実施)
- ・ 産後8週間以内に育休を取得した男性職員に対し、**1日あたり2千円(5日上限)を助成**(R5~)

- ・ 男性職員の育児休業取得率 R5 : 100.0% (R1: 4.9%)
- ・ 1ヵ月以上の育児休業・休暇 R5 : 95.4% (R2:28.4%)

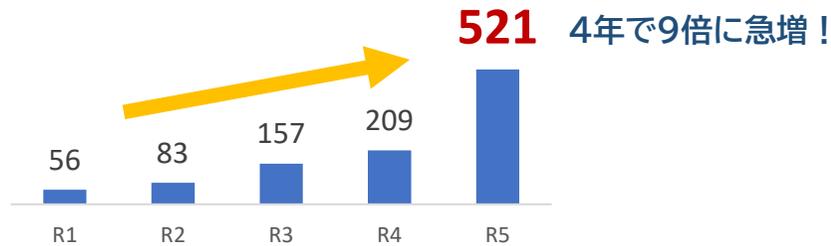


県庁の取組みを全県へ拡大

徹底的な働き方改革

- ・従業員の働きやすい職場づくりを行う
「社員ファースト企業」の輪が拡大
- ・定時退社や育休取得を促進する
「かえるプロジェクト」の推進

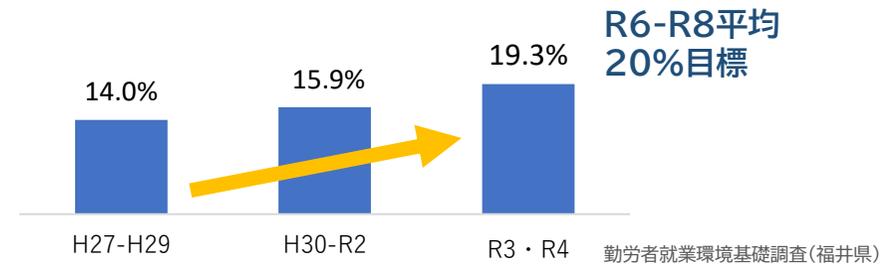
「社員ファースト」宣言企業数（社）



意思決定にもっと女性の力を

- ・女性の採用、育成、登用などに積極的に取り組む「ふくい女性活躍推進企業」を応援
- ・個別訪問や意見交換により経営者・企業へのアプローチを強化

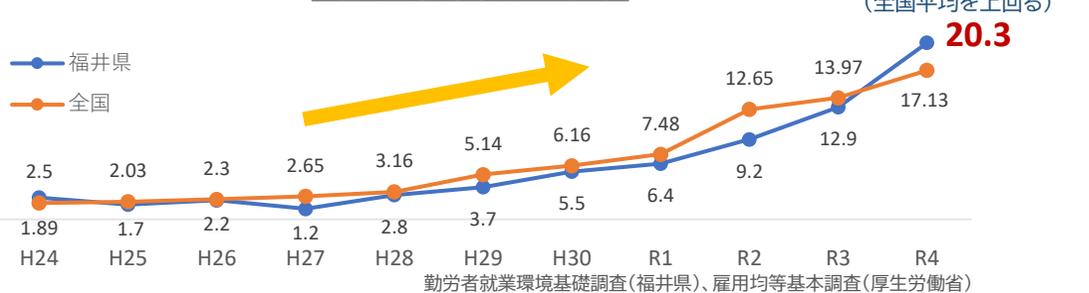
県内企業の女性管理職割合



父親の家事・育児参加の促進

- ・夫婦がともに家事を楽しむ「共家事」を促進
- ・最大600万円超の「男性育休取得奨励金」の創設

男性育児休業取得率（%）



女性活躍優良活動を表彰

県庁の取り組み(生成AIの活用による業務効率化)

活用実証 2023年6月～



(1) タスクフォース(職員公募30名) ※2023年6月～7月

- 1700回活用し、メンバーの約95%が、「生産性向上に寄与する」と評価
- 情報収集よりも、検討や実施段階で効果が大きいことを確認

生成AIの活用により生産性向上

情報収集	検討	実施
<ul style="list-style-type: none"> ● 情報収集・整理 ● 要約・翻訳 ● データ分析 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブレインストーミング コンサルティング (削減時間 56分) 論点整理・課題発見 仮説設定・アイデア出し 	<ul style="list-style-type: none"> ● ドラフト作成 (削減時間 51分) 資料構成・内容検討 文章作成・推敲
<ul style="list-style-type: none"> ● プログラミング (削減時間 391分) Excelマクロ作成・帳票作成自動化 		

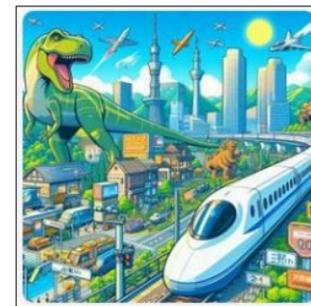
(2) 全職員を対象に、汎用型生成AIの活用実証 ※2023年10月～

本格導入 2024年4月～

- 生成AIサービスを本格導入
- 利用の手引きや事例集を作成

活用例

- ・ 政策立案のアイデア出し
- ・ 県民向け広報のブラッシュアップ
- ・ 予算資料や議会答弁のたたき台作成
- ・ 補助金交付要領のFAQの作成 など



(画像生成例) 恐竜などの要素を盛り込んだ20年後の福井県の明るいイメージ

県庁の取り組み(若手職員のチャレンジ応援)

若手職員のチャレンジを応援！

○チャレンジ政策提案

- ・若手職員が知事に直接プレゼンし、優れた政策は予算編成手続きを経て事業化

R5実績:提案件数 13件 (のべ76名参加) (R4年度14件提案10件事業化)
事業化(見込) 11件

○タスクフォース

- ・若手職員等が、担当に関係なく部局横断で「タスクフォース」を結成し、行政課題の解決に「挑戦」

▶ ふくい式20%ルール、チャレンジ枠予算(シーリング対象外)、政策トライアル予算など制度面からもバックアップ

知事へのプレゼン

いいね!



○若手職員の積極登用

- ・若手職員を課長相当の業務を担う「**ディレクター**」に登用 R6年度 6名
チャレンジ応援ディレクター(COD)、幸福実感ディレクター、SDGsディレクター、
歴史魅力向上ディレクター、人財発掘ディレクター、こども応援ディレクター
- ・職員が目指すキャリア形成を後押しする人事の「**チャレンジ制度**」
庁内公募により職員を希望する専門分野や各種プロジェクトへ配置

○クレドアワード

- ・自ら進んで「改善」に取り組む職員を表彰 自発的な取り組みを応援!



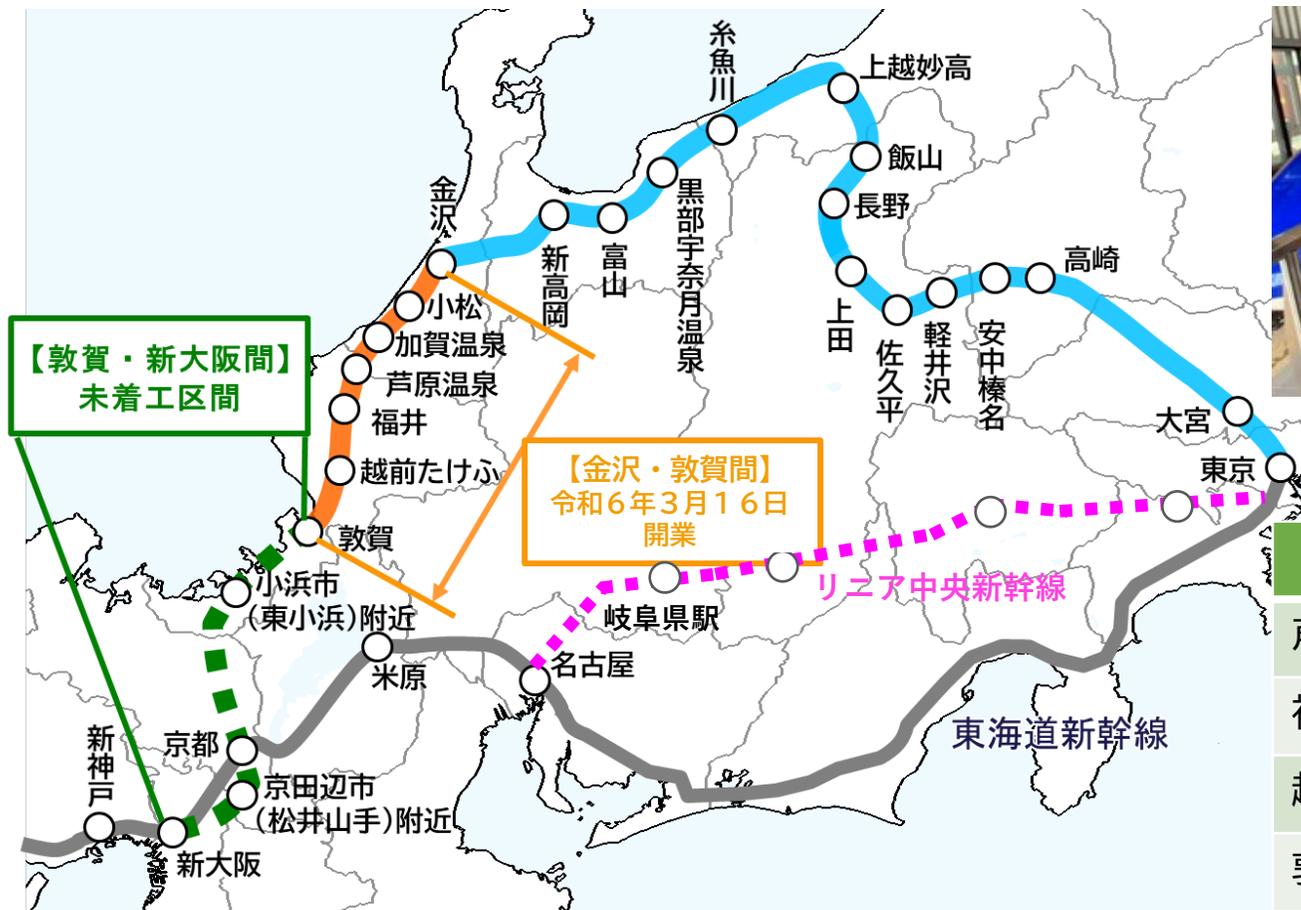
6名のディレクター

目次

- 1 福井県の紹介
- 2 県政運営の基本原則
- 3 ふくい新時代の幕開け**
- 4 「価値づくり産業」の創出

北陸新幹線の福井・敦賀開業

○令和6年3月16日（土）北陸新幹線福井・敦賀開業



福井情熱駅長のCM撮影

	かがやき	はくたか
芦原温泉駅	4本	10本
福井駅	18本	10本
越前たけ心駅	4本	10本
敦賀駅	18本	10本

福井県内 発着本数

【東京発－福井行】

始発電車 6:16発 - 9:13着
 最終電車 19:56発 - 22:52着

【福井発－東京行】

始発電車 6:32発 - 9:32着
 最終電車 20:33発 - 23:32着

北陸新幹線の福井・敦賀開業

○3月16日 北陸新幹線 福井・敦賀開業 開業当日の様子



敦賀駅出発式



福井駅周辺の様子



ハピラインふくい 開業記念出発式



ブルーインパルスによる祝賀飛行

ふくいが熱い！ スポーツ・音楽

○ふくい桜マラソン初開催



ふくいが熱い！ スポーツ・音楽

○ふくいに吹くワクワクの風



観光地の磨き上げ(嶺北)

○恐竜博物館の大規模リニューアル



・ オールシーズン体験可能なフルモデルチェンジ

大幅に更新した常設展示 (44体→**50体**)

化石クリーニングやCT化石観察など「**化石研究体験**」

高さ9m×幅48mの「**3面ダイノシアター**」



観光地の磨き上げ(嶺南)

○三方五湖エリアのスケールアップ

三方五湖に浮かぶ天空テラス



山頂公園足湯

- 山頂公園リニューアル

足湯やソファータラスなど5つのテラスを新設
レストラン&カフェの整備

- 美浜町レイクセンター整備

国内初再生可能エネルギーを活用した遊覧船
レンタサイクルステーション、カフェの整備



美浜町レイクセンター



電池推進遊覧船

自慢の食

○冬の味覚の王者 越前がに



自慢の食

○豊かな海・里・山の幸



地域交通のエンタメ化・利便性強化

○移動を楽しめる仕掛けを作り、満足度を高める

- ・ 恐竜列車（えちぜん鉄道福井駅～勝山駅）
 外装は恐竜ラッピング
 内装は恐竜時代にタイムスリップした雰囲気
- ・ 観光列車（JR小浜線）※2024年秋予定
 ゆったりと過ごせる車内空間
 沿線や駅舎に映えるエクステリアデザイン
- ・ 観光周遊型XRバス「WOWRIDE」（福井駅⇄恐竜博物館など）
 車窓風景に重ね合わせた臨場感あふれるARを体感
 観光地にまつわるVRによりワクワク感を演出
- ・ 並行在来線「ハピラインふくい」開業
 増便 上下102本/日→131本/日
 快速 福井—敦賀間の快速列車新設



民間投資の拡大

○外資系ホテルや研究開発拠点、エリア開発の進出



北陸新幹線 県内開業の効果(開業後2か月間の状況)

○全国、特に関東圏・信越から来訪者が大幅に増加し、好調を維持

- 新幹線駅周辺の来訪者比較 ※越前たけふ駅除く (県推計値)

単位: 万人

地域	開業2か月間 (R6:3.16~5.15 R5:3.18~5.17)				【参考】	
	来訪者数	前年同期	増減数	前年比(%)	1か月目	2か月目
					前年比(%)	前年比(%)
関東圏	23.1	15.9	7.2	145.3	162.5	131.0
関西圏	45.8	34.7	11.1	132.0	138.8	124.9
中京圏	15.0	12.8	2.2	117.2	131.7	104.4
北陸	28.7	25.2	3.5	113.9	117.5	110.3
信越	4.1	2.1	2.0	195.2	191.7	200.0
その他	10.9	7.8	3.1	139.7	148.7	130.8
合計	127.6	98.5	29.1	129.5	138.0	121.3

※来訪者数は、いずれもKDDIが保有するビックデータを用いて算出した県推計値で、前年との比較が可能な芦原温泉駅周辺、福井駅周辺、敦賀駅周辺の合計値かつ延べ人数
 関東圏: 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、栃木県、茨城県、群馬県
 関西圏: 大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県
 中京圏: 愛知県、岐阜県、三重県
 北陸: 石川県、富山県 (福井県を除く)
 信越: 新潟県、長野県

※1か月目は、R6年は3月16日~4月15日、R5年は3月18日~4月17日
 ※2か月目は、R6年は4月16日~5月15日、R5年は4月18日~5月17日

データ提供: KDDI・インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
 ※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザー一技研商事を対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。
 ※表の縦横の合計値は、四捨五入の関係で合わない場合がある。



敦賀駅(GW)コンコースの様子

○交流人口の拡大により県内消費も引き続き好調

- 新幹線駅周辺の商業施設では入込数が**10~100%増**となり、GW期間中の売上が開業日並みになる日もあるなど好調を維持
- あわら温泉では、宿泊者数が**開業前の約1.6倍**



くろふ福井駅(GW)の様子

○地域公共交通のDX化で、県民にも利用しやすく

キャッシュレス決済

- 路線バス 4.2% → **92.3%**に導入 首都圏を除いた**北陸新幹線沿線圏で導入率トップ**
- タクシー 7% → **70.2%**に拡大

タクシー配車アプリ

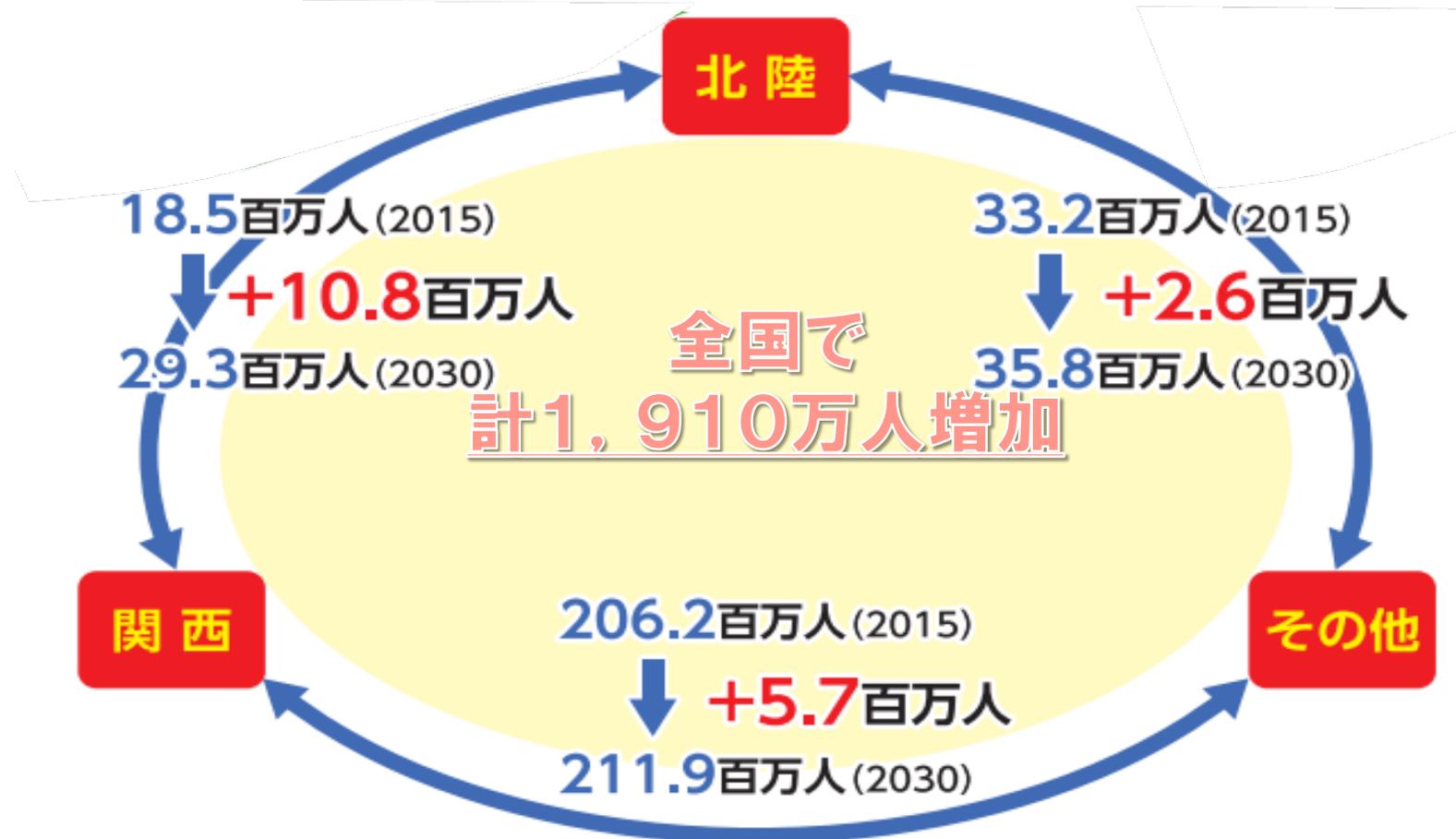
- 都市部で広く普及する配車アプリを導入 12% → **56.1%**に拡大



北陸新幹線全線開業の意義(経済効果)

○大阪まで開業した場合の整備効果

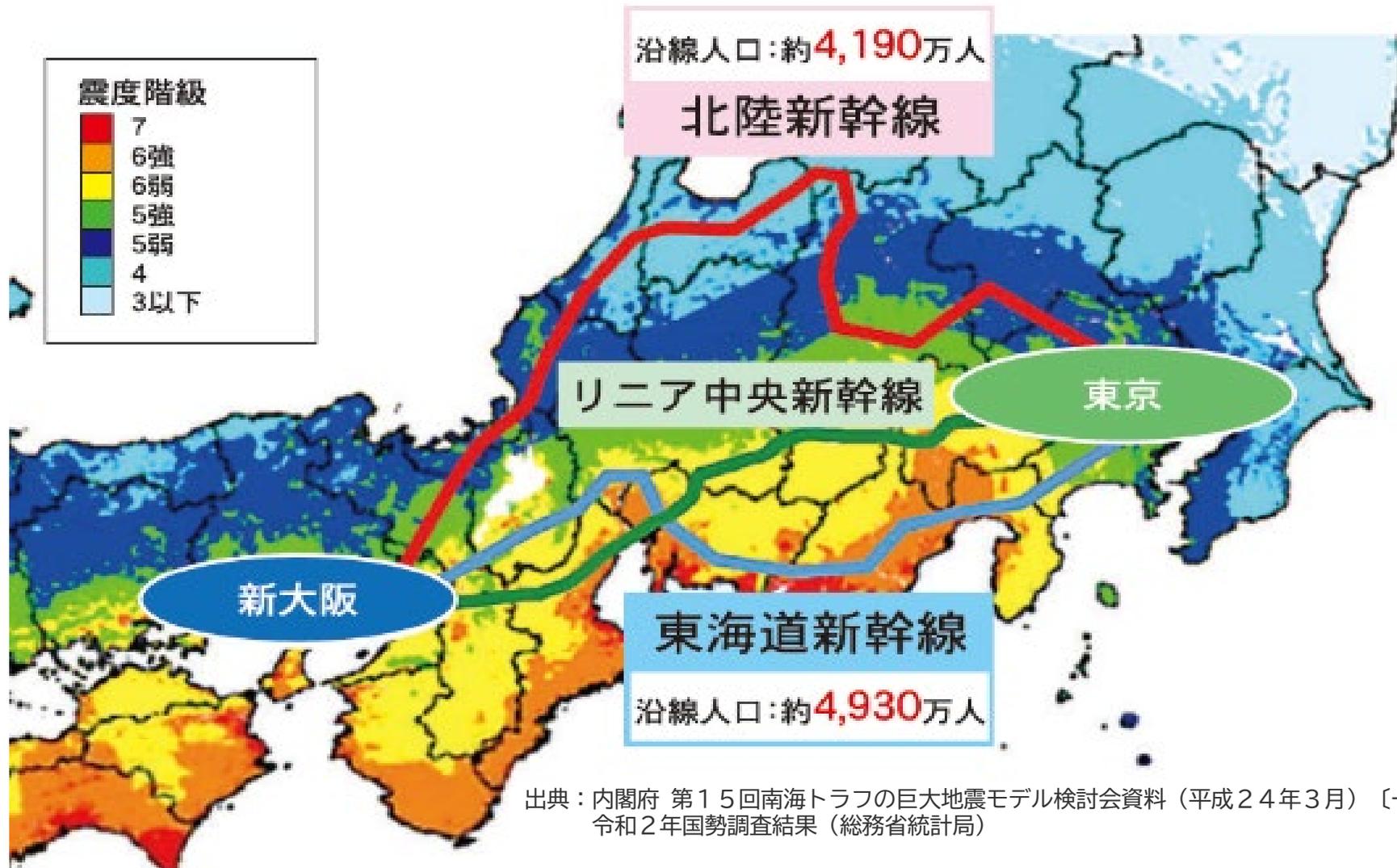
- ・ 交流人口の増加：全国で1,910万人（うち関西圏で1,650万人）
- ・ 経済波及効果：全国で2,700億円



北陸新幹線全線開業の意義(災害時の代替機能)

○大規模災害時の東京・大阪間を結ぶ東海道新幹線の代替機能を果たす。

南海トラフ地震の震度分布と新幹線ルート



出典：内閣府 第15回南海トラフの巨大地震モデル検討会資料（平成24年3月）〔一部加筆修正〕
令和2年国勢調査結果（総務省統計局）

幹線道路網の整備促進

○東西南北に開く高速交通・物流ネットワークの整備



敦賀港国際物流ターミナルの拡張

○陸上輸送から海上輸送へのモーダルシフト



目次

- 1 福井県の紹介
- 2 県政運営の基本原則
- 3 ふくい新時代の幕開け
- 4 「価値づくり産業」の創出

「価値づくり産業」の創出

○成長産業への積極的な投資促進

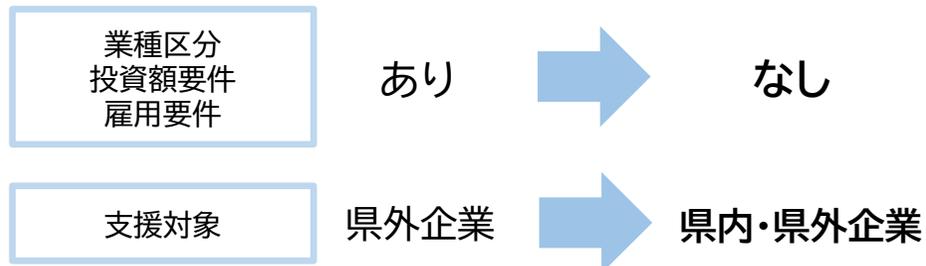
企業誘致の考え方を「量から質に」転換

- ・ 県の施策・プロジェクト等と連携し
「地域経済牽引」に資する投資への
新たな支援枠を設置
- ・ 先端企業へのトップセールスを推進
- ・ 若者や女性が働きやすい
魅力的な企業を重点的に支援

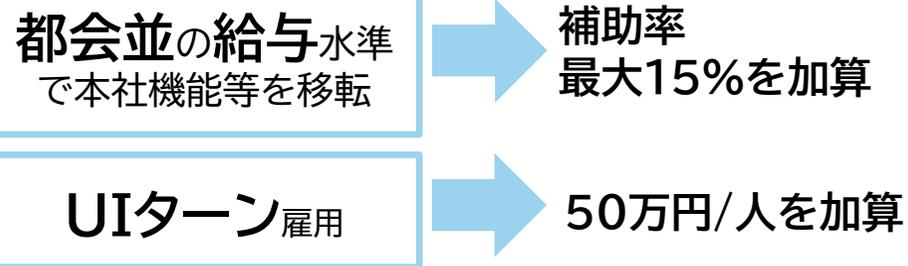


高付加価値企業に新たな支援枠を設置

県のプロジェクト等と連携できる企業を対象



魅力的な企業に補助額・補助率等を加算



「価値づくり産業」の創出

世界初 次世代型リチウムイオン電池「全樹脂電池」

- 熱暴走による火災リスクの低減

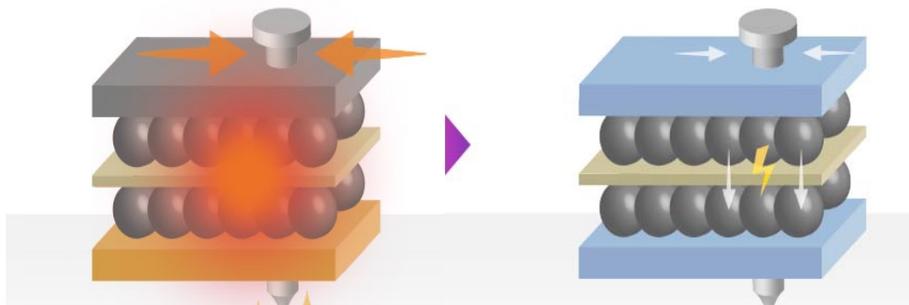
金属に代えて抵抗の高い樹脂集電体を利用

Conventional Lithium-Ion Battery

従来型リチウムイオン電池

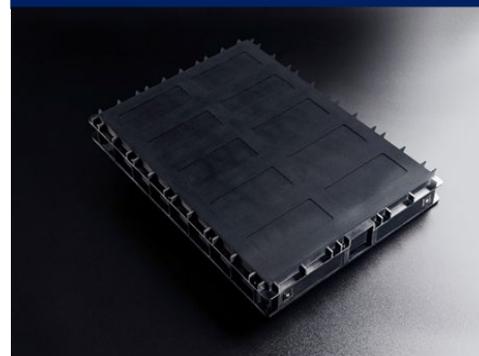
All Polymer Battery

全樹脂電池



- 高エネルギー密度の実現

大面積セルをバイポーラ積層



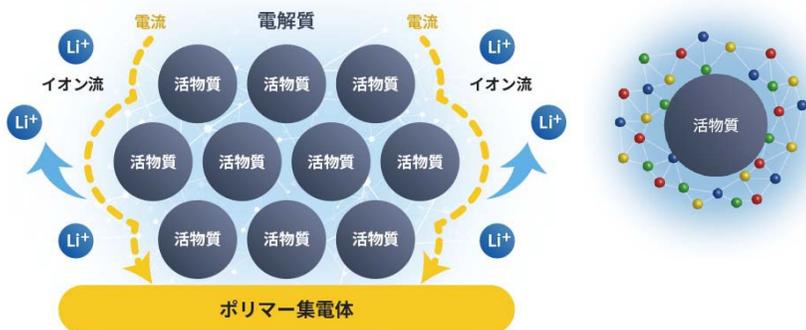
新開発の全樹脂電池モジュール
(寸法: 約 550 x 400 x 50mm)



内部構造 (左写真モジュール内部)
40 枚の電池セルをバイポーラ積層し直列に接続

- 製造プロセス削減によるコスト低減

電極乾燥工程や金属集電体に起因する加工プロセスが不要



会社概要	
会社名	APB (株)
所在地	福井県越前市
代表者	代表取締役 堀江英明
設立	2018年10月
資本金	1億円
従業員数	65名
事業内容	リチウムイオン電池の研究、開発、製造、販売



APB武生工場 (2021年開所)

県都まちなかにおけるイノベーション創出

○福井駅前インキュベーション施設の整備支援



- ・都市圏企業との共創によるイノベーション促進
- ・福井県のイノベーション推進チームが入居し、企業からの相談にワンストップで対応



スタートアップ支援

○福井発ベンチャー企業の創出（ベンチャーピッチの開催）



「チャレンジ!!」の拡大

○若者による新ビジネスや地域活性化プロジェクト



「4K」農林水産業の展開(希望あふれる・かっこいい・稼げる・感動)

スマート農業の加速

自動走行農機や、明るさや湿度等を自動管理する
スマート園芸施設など先端技術を普及拡大



水産資源の先端増養殖研究

産学官での共同研究を推進する
「かつみ水産ベース」の運用を開始



もうける林業・稼げる林業

山の価値を最大化する福井県独自の林業
「Fukui Forest Design」を提唱



Fukui Forest Design

○もうける林業・稼げる林業の推進

- ・「大きな林業」と「小さな林業」の最適な組合せ
- ・山の価値を最大化する福井県独自の林業「Fukui Forest Design」を提唱

県内の人工林12万haのうち収益性が高い森林が対象

- ① 災害リスクの低い林業適地では「大きな林業」(森林の所有と経営を分離、効率的な主伐・再造林等を進める「ふくい型林業経営モデル」)
- ② 集落周辺の急勾配な森林では「小さな林業」(小規模な木材生産と副業を組み合わせた「自伐型林業」)

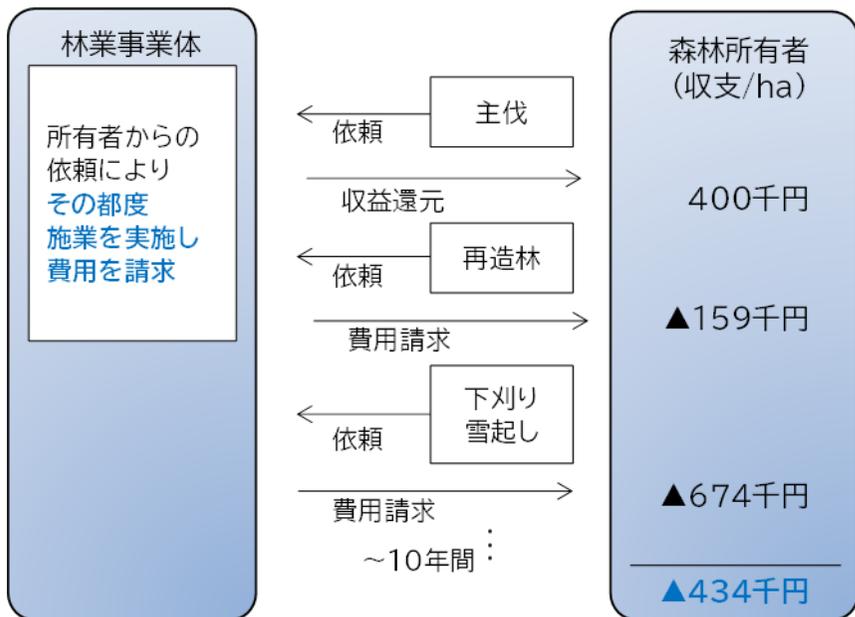
大きな林業・小さな林業の適地のイメージ例



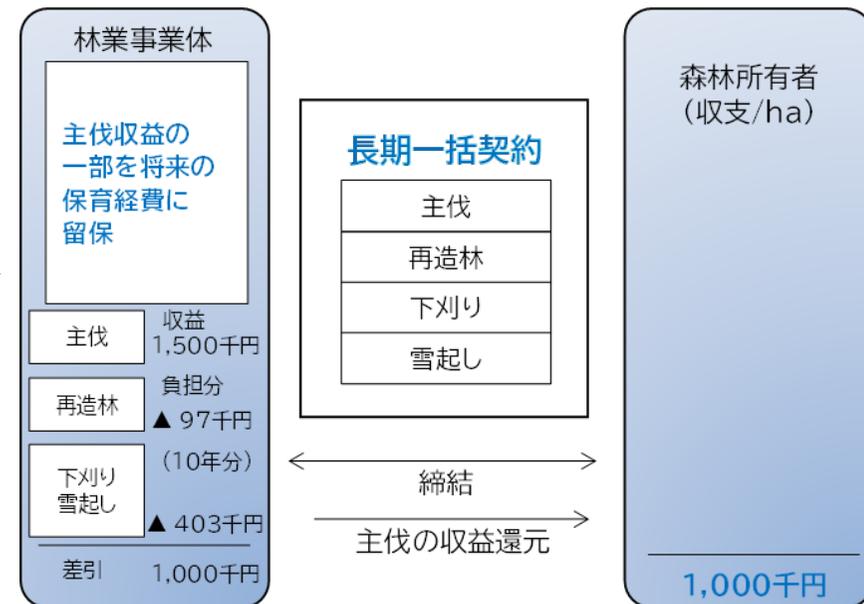
大きな林業(ふくい型林業経営モデル)

森林所有者と林業事業者が「主伐・再造林・保育」について10年程度の長期一括契約を締結
(効果：主伐の推進による収益UPと県産材生産量の拡大、森林所有者の管理負担の解消)

これまでの主伐・再造林・保育

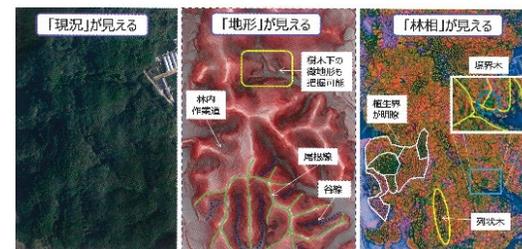
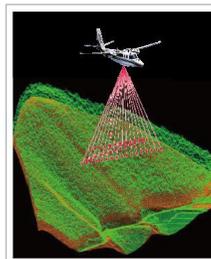


目指す姿:ふくい型林業経営モデル



主伐・再造林・保育の効率化

大規模工場誘致により県産材利用を拡大
DXにより林業事業者・森林所有者を支援
・林業適地の選定および施業地確保の省力化



【林業DXによる森林情報共有・施業地確保等の省力化】

小さな林業(自伐型林業による山村地域の活性化)

【県内の自伐型林業実施団体(R6.3月末現在)】

7団体37名(うちUIターン17名)
 <<R6設立準備中:3団体>>



自伐型林業の
 希望者を受け入れ

【自伐型林業による山村での生活】



自伐型林業に取り組みやすい環境の創出

①自伐型林業を目指す方への移住者給付金や生活給付金



- ・引越し等準備への支援
- ・技術取得期間(3年間)の生活支援

②自伐型林業団体の研修・技術指導等への支援



- 【新規参入者向け】
- ・自伐型林業学校の運営支援
- 【既存団体向け】
- ・技能向上研修の開催支援

自伐型林業学校の開校 (R5.4.18)



③地域おこし協力隊の採用

- ・儲かる半林半Xモデルの実践
- ・県内自伐型林業団体等の活動サポートなど

自立に向けた半林半Xの推進

儲かる『自伐(半林)×副業(半X)』のモデルづくり

木材の高付加価値化(6次産業化)



製材所乾燥機の利活用による 薪の早期出荷(早期換金化) 家具製造等による丸太の高付加価値 (ECサイトでの家具販売)

山林内での観光・体験



コテージの運営



作業道のMTBレース利活用 等

地域課題解決のため民間投資の呼び込みを加速

○民間ビジネス応援で地域課題の解決（「共助」のエコシステム）

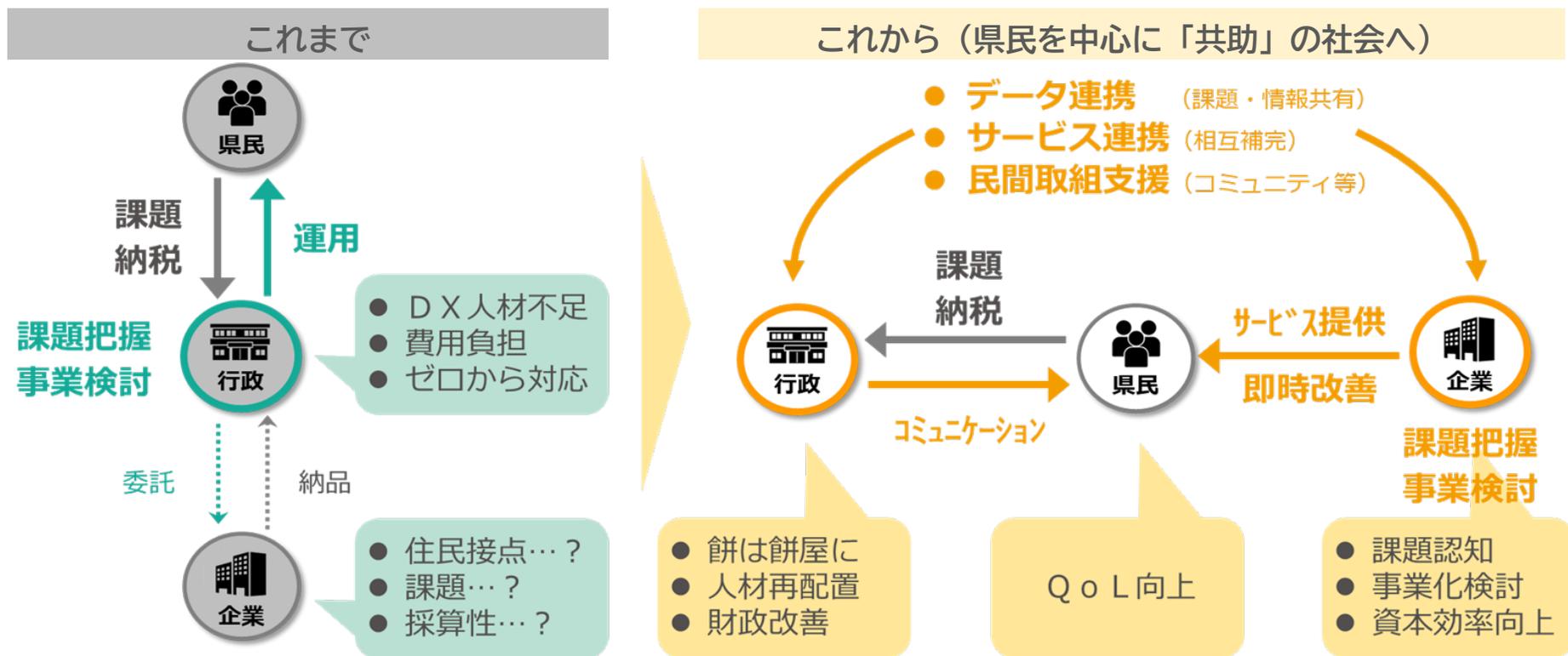
・課題設定型

事前に各市町から収集した地域課題を**民間の先進技術・ノウハウを活用**して解決

・自由提案型

独自性・創造性に富む**民間事業者が独自に課題を設定**し、地域課題を解決

【イメージ】民間が地域課題に向け「やりたいこと(ビジネス)」を行政が「ちょい足し応援」



デジタル地域通貨を活用したDXの推進

○福井県デジタル地域通貨「ふくい はぴコイン」

- ・ 県・市町、民間が利用可能なデジタル地域通貨のプラットフォーム **全国初**
- ・ ユーザー数は約16万人 **県民の2割が利用**
- ・ 県内約4,300店舗以上の加盟店で利用可能



「はぴコイン」を使った取組み

出産・子育て応援	妊娠・出産時の給付金の利用可能店舗を子育て応援店舗に限定
的確な経済対策	消費行動が落ち込んでいる業態を対象とした地域商品券発行
県民の幸せ実感	ボランティア参加で貯めたポイントを他者のために寄付 (自分の活動が誰かの幸せにつながる)
健康増進	歩数に応じたポイント付与により運動の習慣化

ふるさと納税の創設

地方で都市部で働き、退職後は地に根をいっし人の循環システムに、地方財政対策は対応できていない。地方で少子化現象を手にする都市部は都市部という受給と負担のチャンスがある。これを解消するに故郷の自治体への寄付に税額控除を認める制度の導入が必要だ。

大都市に欠ける人口減の危機感

二〇〇〇年の合計特殊出生率は前年比で一・一五と過去最低を更新する中、福井県は全国道府県中唯一前年より上昇し、一・一七と油断禁止の水準であった。福井県は二〇二〇年までの出生率の高さは四二位である。福井県は出生率の高さを誇り、人口減少の危機感を感じている。出生率が一・一五と過去最低を更新する中、福井県は全国道府県中唯一前年より上昇し、一・一七と油断禁止の水準であった。



経済教室

福井県は出生率の高さを誇り、人口減少の危機感を感じている。出生率が一・一五と過去最低を更新する中、福井県は全国道府県中唯一前年より上昇し、一・一七と油断禁止の水準であった。

少子化対策と税源偏在解消 「故郷寄付金控除」導入を

これはいわば将来のため「百圓千圓と大抵」の投資である。これが、毎年約三兆円を支出し、地方は多額の行政コストをたかたかへくかしている。そのコストを総て回収する前に、大都市圏が放置されているのが現状である。大都市圏が放置されているのが現状である。大都市圏が放置されているのが現状である。

税、都市から地方へ 受益負担、生涯でバランス



福井県知事 内山 洋一郎

税、都市から地方へ。受益負担、生涯でバランス。これはいわば将来のため「百圓千圓と大抵」の投資である。これが、毎年約三兆円を支出し、地方は多額の行政コストをたかたかへくかしている。そのコストを総て回収する前に、大都市圏が放置されているのが現状である。

税、都市から地方へ。受益負担、生涯でバランス。これはいわば将来のため「百圓千圓と大抵」の投資である。これが、毎年約三兆円を支出し、地方は多額の行政コストをたかたかへくかしている。そのコストを総て回収する前に、大都市圏が放置されているのが現状である。

税、都市から地方へ。受益負担、生涯でバランス。これはいわば将来のため「百圓千圓と大抵」の投資である。これが、毎年約三兆円を支出し、地方は多額の行政コストをたかたかへくかしている。そのコストを総て回収する前に、大都市圏が放置されているのが現状である。

税、都市から地方へ。受益負担、生涯でバランス。これはいわば将来のため「百圓千圓と大抵」の投資である。これが、毎年約三兆円を支出し、地方は多額の行政コストをたかたかへくかしている。そのコストを総て回収する前に、大都市圏が放置されているのが現状である。

税、都市から地方へ。受益負担、生涯でバランス。これはいわば将来のため「百圓千圓と大抵」の投資である。これが、毎年約三兆円を支出し、地方は多額の行政コストをたかたかへくかしている。そのコストを総て回収する前に、大都市圏が放置されているのが現状である。

税、都市から地方へ。受益負担、生涯でバランス。これはいわば将来のため「百圓千圓と大抵」の投資である。これが、毎年約三兆円を支出し、地方は多額の行政コストをたかたかへくかしている。そのコストを総て回収する前に、大都市圏が放置されているのが現状である。

西川 一誠
福井県知事

税、都市から地方へ。受益負担、生涯でバランス。これはいわば将来のため「百圓千圓と大抵」の投資である。これが、毎年約三兆円を支出し、地方は多額の行政コストをたかたかへくかしている。そのコストを総て回収する前に、大都市圏が放置されているのが現状である。

税、都市から地方へ。受益負担、生涯でバランス。これはいわば将来のため「百圓千圓と大抵」の投資である。これが、毎年約三兆円を支出し、地方は多額の行政コストをたかたかへくかしている。そのコストを総て回収する前に、大都市圏が放置されているのが現状である。

税、都市から地方へ。受益負担、生涯でバランス。これはいわば将来のため「百圓千圓と大抵」の投資である。これが、毎年約三兆円を支出し、地方は多額の行政コストをたかたかへくかしている。そのコストを総て回収する前に、大都市圏が放置されているのが現状である。

人生の師

交遊抄

当時の秘書室メンバーは今でも親しみを込め「大臣」と呼ぶ。退任後は毎年、全員集まり誕生日のお祝いをしている。昨年コロナ禍で開けなかったが、11月に夫妻を招き、妻と越前がにをこちそうさせていただいた。思い出話など楽しいひとときだった。「君はよつやとる」。厳しい師にやっと少し認められたかと思う。(すぎもと・たつじ 福井県知事)

厳しい師 杉本 達治

「何年秘書官をやっとるんだ！」とにかくよく大きな声で怒られた。眠れない夜を幾晩過ごしたとか。

片山虎之助元総務大臣。私の師であり、いまの職にあるのも片山大臣の影響が大きい。自治省（現総務省）の28年先輩にあたる。私は、片山氏が最後の自治大臣、初代総務大臣だった2000年12月5日からの1022日間、秘書官をずっと務めた。朝のお迎えでゆり子夫人がかけてくれる温かい言葉が唯一の救いだった。

それでいて心根は優しい。病室にお母さまを見舞った際、「虎だよ。痛いところはない？」と腰をさすっていた。

「役人を怒っても、代わりに役人にはできないことをしてやればいい」。厳しいようで人を裏切らず、自らの役割を存分に果たす。私が深夜の連絡をためらった時に「どんな状況でも必要なことは躊躇するな」と教えられたことは、仕事に向かう心構えとなっている。

当時の秘書室メンバーは今でも親しみを込め「大臣」と呼ぶ。退任後は毎年、

全員集まり誕生日のお祝いをしている。昨年コロナ禍で開けなかったが、11月に夫妻を招き、妻と越前がにをこちそうさせていただいた。思い出話など楽しいひとときだった。「君はよつやとる」。

厳しい師にやっと少し認められたかと思う。(すぎもと・たつじ 福井県知事)

(2021年5月21日 日本経済新聞)

日々の行事や活動の様子など、最新情報を発信しています

X Twitter



facebook



福井県 知事ページ
(福井県HP)

